

おほとものすくねするがまる
大伴宿禰駿河麻呂の歌一首

六四六番

ますらをの 思おもひわびつつ 度たびまねく 嘆なげく嘆なげきを
負おはぬものかも

おほとものさかのうへのいらつめ
大伴坂上郎女の歌一首

六四七番

心こころには 忘わするる日ひなく 思おもへども 人ひとの言ことこそ
繁しげき君きみにあれ

おほとものすくねするがまる
大伴宿禰駿河麻呂の歌一首

六四八番

相見あひみずて 日け長ながくなりぬ このころは いかにか
きくや いふかし我わ妹も

おほとものさかのうへのいらつめ
大伴坂上郎女の歌一首

六四九番

夏葛なつくずの 絶たえぬ使つかひの よどめれば 事ことしもある
ごと 思おもひつるかも